令和元年度　岩手県立総合教育センター

研究主題

知的障がい教育における
教育課程の適切な実施に関する研究
（小学校特別支援学級）

-学びの連続性を踏まえた単元構成・授業づくりを通して-

【研究担当者】長期研修生　藤井　未央
（所属校　盛岡市立向中野小学校）
【この研究に関する問い合わせ先】
TEL　0198-27-2821　FAX　0198-27-3562
E-mail　sien-r@center.iwate-ed.jp

Ⅰ　研究の構想

令和２年度から全面実施される小学校学習指導要領総則及び解説において，特別な配慮を必要とする児童への指導についてより明確に示されるようになりました。また，特別支援学校学習指導要領解説は，小学校及び中学校の各教科等の目標や内容等との連続性や関連性をより重視したものになりました。従って，特別の教育課程を編成することができる知的障がい特別支援学級においては，特別支援学校における教育課程に関する知識・理解を深め，それを実際の授業で具現化する専門性が求められています。

特別支援学級の現状と課題として，これまでの研究から以下の４点が挙げられています。

・児童数の増加による，専門的な支援の必要性
・担任経験年数の少なさ
・特別支援学校の教育課程の理解不足
・特別の教育課程の編成の難しさ

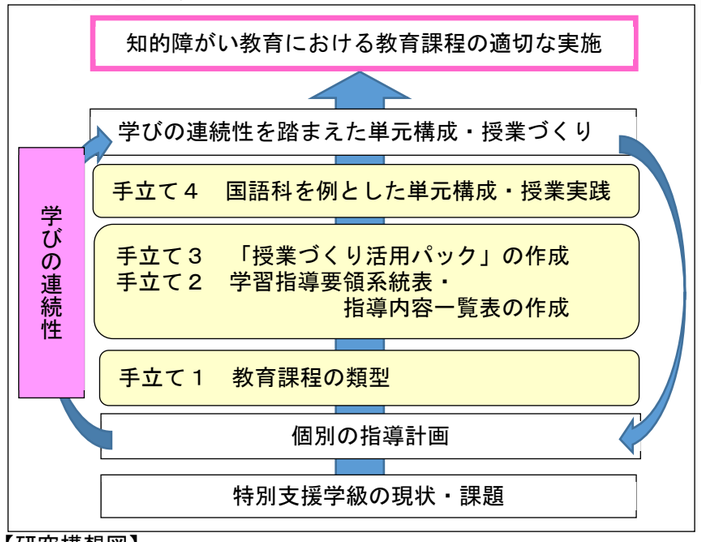
これらの課題を踏まえ，「知的障がい教育における教育課程の適切な実施」に向け，手立てを下図の４点にして，研究を進めることとしました。

「適切な実施」とは・・・

児童の実態に応じた目標や内容，手立てが明確な授業が実施されること

「学びの連続性とは・・・

多様な学びの場を準備するだけでなく，それぞれの場における目標や指導内容に着目し学校種を越えてニーズに応じた十分な教育を目指すもの



【研究構想図】

Ⅱ　実践

手立て４　国語科を例とした単元構成・授業実践

授業実践２　*単元名「ブレーメンのまちのはなし」（教科としての国語「読むこと」）*

実態把握

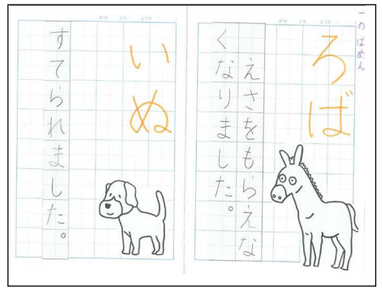
授業実践１と同様に「指導内容一覧表」を使って，本単元に関わる，「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等（読むこと）」について実態把握を行いました。下図は，「読むこと」の一部分です。

目標設定

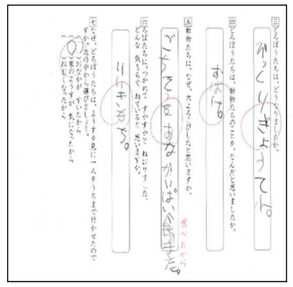
		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
思考力、判断力、表現力等	読むこと	イ絵本などを見て，知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	１段階	◎	◎	◎	◎	◎
		イ教師と一緒に絵本などを見て，時間の経過などの大体を捉えること。	２段階	★	○	★	○	○
		イ絵本や易しい読み物などを読み，時間的な順序など内容の大体を捉えること。	３段階		○		○	○
		イ場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。	１・２年		★		○	★
		イ登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。	３・４年				★	
		イ登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。	５・６年					

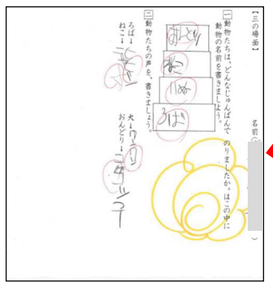
◎：十分達成されている状態　○：概ね達成されている状態　★：本単元で目指す内容

展開



登場人物の行動に絞って読み取りを行いました。登場人物が書いてあるカードと，行動が書いてあるカードをそれぞれ選んで貼ります。また，書字力を高めることにも課題があったため，登場人物の名前をなぞり書きすることとしました。





前回の実践で，目標設定が高かったという課題を受け，概ね達成されている内容にも着目し，これらの内容を問うような問題を意図的に盛り込みました。また教科書のどの部分を読めば解答できるのか迷い，活動が止まってしまう様子が見られたため，教科書見開きで解答できる問題をプリント１枚に設定しました。

評価・改善

本単元でも，観点別学習状況の評価と，観点以外の児童の変容を見取る個人内評価を行いました。「振り返りカード」も継続させることで，児童は進んで書いたり，書く量が増えたりしました。単元を通しての成果(◎)と課題(▲)は，以下の４点です。

◎児童にとって興味のある活動や，自力で取り組む課題があることは，教科別の指導にも効果的であった
◎概ね達成されている内容も踏まえて目標と内容を設定する必要があり，指導内容を広く理解する上で，指導内容一覧表は有効であった
◎指導内容一覧表は，次の単元や他教科等にも引き継いで活用できるものであった
▲次の学習につなげることで，単元が変わっても系統的に指導する必要があった

研究内容や「授業づくり活用パック」を使っての授業づくりの詳細は，当センターのWebページに掲載しています。
https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html

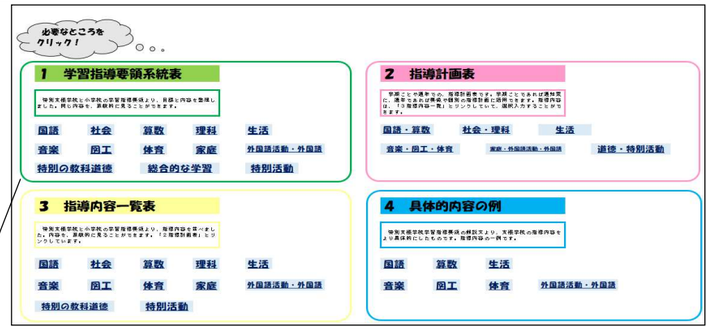
Ⅱ　実践

手立て１　教育課程の分類

・小学校の各教科等を中心に編成したもの
・小学校の各教科等に特別支援学校（知的障がい）の各教科等を取り入れて編成したもの
・小学校の各教科等に各教科等を合わせた指導を取り入れて編成したもの

先行研究等を参考に，上記のように３つに分類しました。この分類は，全ての児童に当てはまるわけではありませんが，教育課程編成の参考になるものであり，特別支援学校との連続性が必要であると捉えることができます。

手立て２・３　学習指導要領系統表・指導内容一覧表の作成，「授業づくり活用パック」の作成



「メニューシート」の中から，必要なシートを選んで使うことができます。

学習指導要領系統表

小学校と特別支援学校の各教科等の目標と内容を整理した表です。上の表は**国語科の目標**です。

指導計画表

学期ごとや年間を通して使用することができる**計画表**です。指導内容の欄は，「指導内容一覧表」とリンクしています。

指導内容一覧表

指導内容を，**段階・学年順に並べ替えた表**です。上の表は，国語科知識及び技能「言葉の特徴や使い方」の一部です。

具体的内容の例

特別支援学校学習指導要領の内容を，**解説に沿って具体的にしたもの**です。上の表は，国語科知識及び技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」の一部です。

手立て４　国語科を例とした単元構成・授業実践

授業実践１　*単元名「お手紙を書こう」（生活単元学習と関連させた国語）*

実態把握

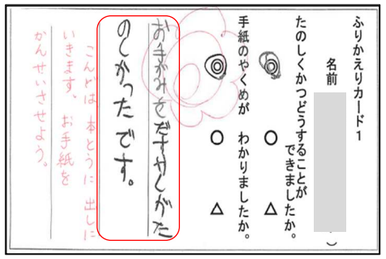
「指導内容一覧表」を使って，本単元に関わる，「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等（書くこと）」について実態把握を行いました。下図は，「書くこと」の部分です。実態把握を受けて単元で身に付けさせたい力を明らかにし，個々の目標設定をします。

目標設定

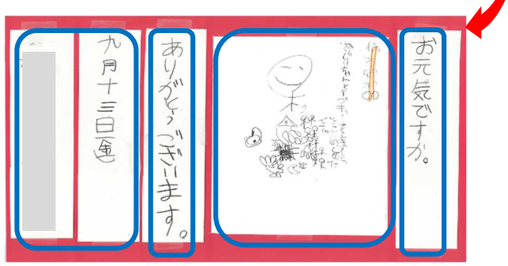
		指導内容	段階・学年	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E
思考力、判断力、表現力等	書くこと	ア身近な人との関わりや出来事について，伝えたいことを思い浮かべたり，選んだりすること。	１段階	◎	◎	◎	◎	◎
		ア経験したことのうち身近なことについて，写真などを手掛かりにして，伝えたいことを思い浮かべたり，選んだりすること。	２段階	★	○	★	◎	○
		ア身近で見聞きしたり，経験したりしたことについて書きたいことを見付け，その題材に必要な事柄を集めること。	３段階		★		◎	★
		ア経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。	１・２年				★	
		ア相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。	３・４年					
		ア目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。	５・６年					

◎：十分達成されている状態　○：概ね達成されている状態　★：本単元で目指す内容

展開



第１時で郵便ごっこを行い，手紙が届くまでの仕組みを体験しました。できるだけ実物に近い形で再現し，手紙を出す人，郵便局の人，手紙を受け取る人に分け，どの役も経験できるようにしました。手紙を出す楽しみ，郵便局の人の仕事の難しさ，手紙を受け取る喜びを感じることができたと考えます。



第３時で，「初めのあいさつ」「本文」「終わりのあいさつ」「後付け」の４つの構成でお手本作りをしました。「伝えたいことを思い浮かべる」や「伝えたいことを明確にする」という目標に迫るため，書きたいことを短冊に書いて整理しました。この児童は，その時の様子を絵でも表しています。絵に描くことで，文章を膨らませることができました。

評価・改善

単元を通して，観点別学習状況の評価と，観点以外の児童の変容を見取る個人内評価を行いました。個人内評価は，毎時間使用した「ふり返りカード」も有効な資料となりました。単元を通しての成果(◎)と課題(▲)は，以下の４点です。

◎手紙を書く目的意識をもって進めることができ，生活単元学習と関連付けたことは効果的であった
◎郵便ごっこをしたり，実物の封筒と切手を使ったりしたことで，児童の「書くこと」に対する意欲を持続させて学習を進めることができた
◎「指導内容一覧表」は，児童の実態把握に有効であった
▲目標設定が高い児童がいた

意欲を持続させる手立ての継続・目標設定の見直し　・・・授業実践２へ